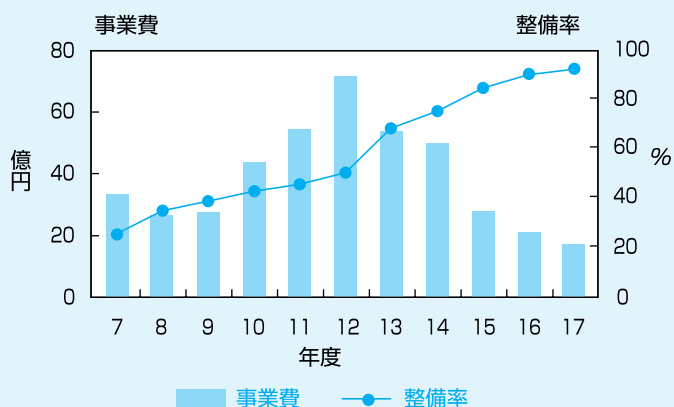


市財政を家計に置き換えたら...

Part3

弟への仕送り (下水道事業会計)

図1 下水道整備事業費と下水道整備率



下水道整備率が急増!!

近年、特に10～14年度にかけて下水道工事が集中しました。そのため、7年度約25%であった下水道整備率^{注1}は、17年度には約90%に増えました(図1)。これにより、下水道に接続できる環境にある地域が急速に広がりました(図2)。ところが、急激な整備率の向上によって下水道事業会計の借金残高は16年度には310億円にまで増加しました。

当時、国や県は下水道整備を重点的に推進していました。また、この時代はバブルが崩壊し景気が低迷していたため、国は公共工事を行うことで景気回復を目指しており、地方が公共工事を行うような国策がありました。加西市も将来必要となる下水道を優先整備する道を選択しました。

図2 下水道に接続できる地域 (平成17年度末)



仕送りはなぜいるの!?

下水道は企業会計ですから本来、独立採算です。なのになぜ仕送りが必要なのでしょう。

仕送り(一般会計からの補助金)には

- ① 国の制度に基づき一般会計が仕送りする責任があるもの
- ② 純粋に特別会計の赤字補てんをしているもの

の二つがあります。国の制度に基づいて下水道整備事業を行い、弟がその借金を返済する時に、市の一般会計と国がそれぞれ約半分ずつ仕送りとして負担しています(図3)。したがって、弟の国の制度に基づく事業に対する借金返済額が増えると、市への仕送りも同じように増えていきます。17年度の「仕送り」は16億円でした。

また、②の赤字補てんは仕送り額全体の約3%(5,000万円)であり、純粋な赤字補てんとしての弟への仕送りは少ないことが分かります。

仕送りはこの10年間で約2倍に膨れています。この理由は、整備率の向上のためにここ10年間で多くの事業を行い、その借金返済が最近増えたためです。

今後、下水道会計から毎年返済する借金額は24年度まで増えるため、それに応じて、一般会計からの仕送り額も増えると思われます。